



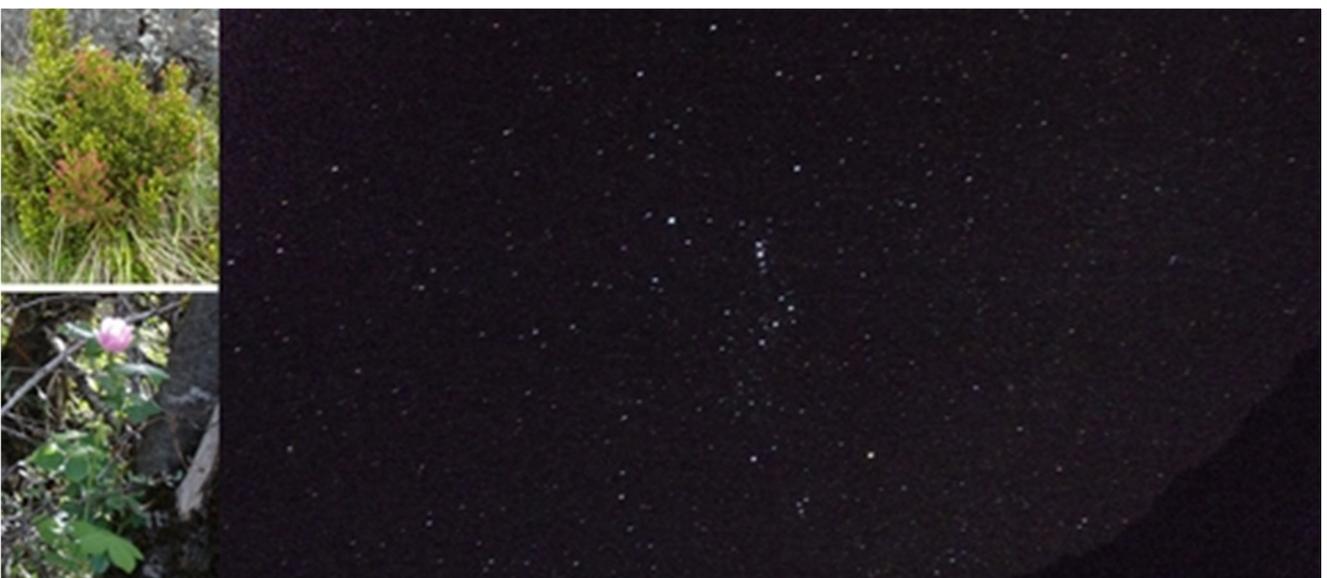
ニュージーランドの旅

パートII



2010年12月4日～16日

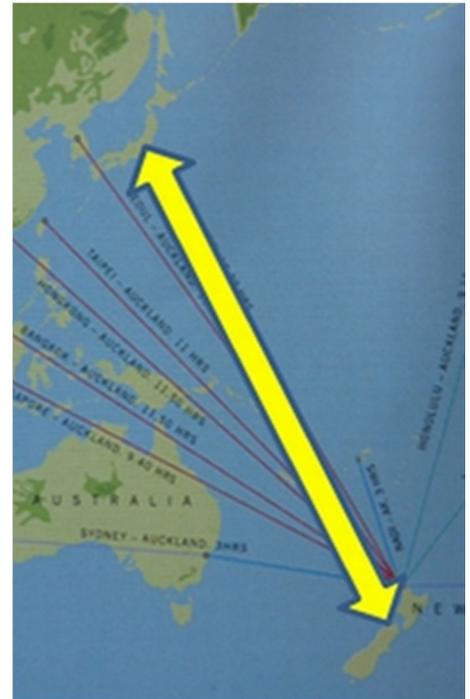
内山 政博・道子



ニュージーランドの旅 パート II

目 次

ツアースケジュール作り	02
さあ出発	03
夏のニュージーランドへ	03
NZで列車の旅だ	06
3度目のマウントクック今度の天気は？	10
のんびりとリゾート気分	13
いよいよ氷河見学	15
ほんとにバスが迎えに来るのかな？これから英語だけ	20
絵葉書のような蒸気船に乗り、牧場で乗馬 ても英語だ	21
今度はどんな列車なのかな？ 今日も英語だ	25
ペンギン観察でもガイドは英語	29
チョコレート工場の見学だ ても英語	36
もう最後のツアーだ	39
天気にも恵まれ、思い出が増えた	43



定年を過ぎ、いろいろな事情から二人とも勤めを辞めることにして自由に使える時間を手に入れ、今まで出来なかった混雑の無いゆったりとした旅を、「リタイア記念の大旅行」と称して、これまた一生に一度の大イベントに挑戦した。

旅行時期：12月前半（マウントクックリリーが咲いているはずの時期）

旅行日数：10日間程度

希望要件：優先順

1. マウントクックリリーを見る（フッカー谷ハイキング）――マウントクック 2泊
2. トランツアルパイン鉄道乗車――クライストチャーチ？
3. 氷河に触る（上を歩く、全景を見る）：ロブロイ氷河 or フォックス氷河
or フランツジョセフ氷河ほか――ワナカ？/西海岸？
4. モエラキボールダーズ、ペンギン見学――ダニーデン？
5. キーウィー見学
6. 土ホタル見学――テアナウ？/ロトルア？
7. マオリショーまたはツアー
8. ロードオブザリングのロケ地ツアー――クイーンズタウン？/グレーノーキー？
9. 牧場訪問
10. カウリの森――オークランド？
11. ホーストレッキング（素人が可能か不明）

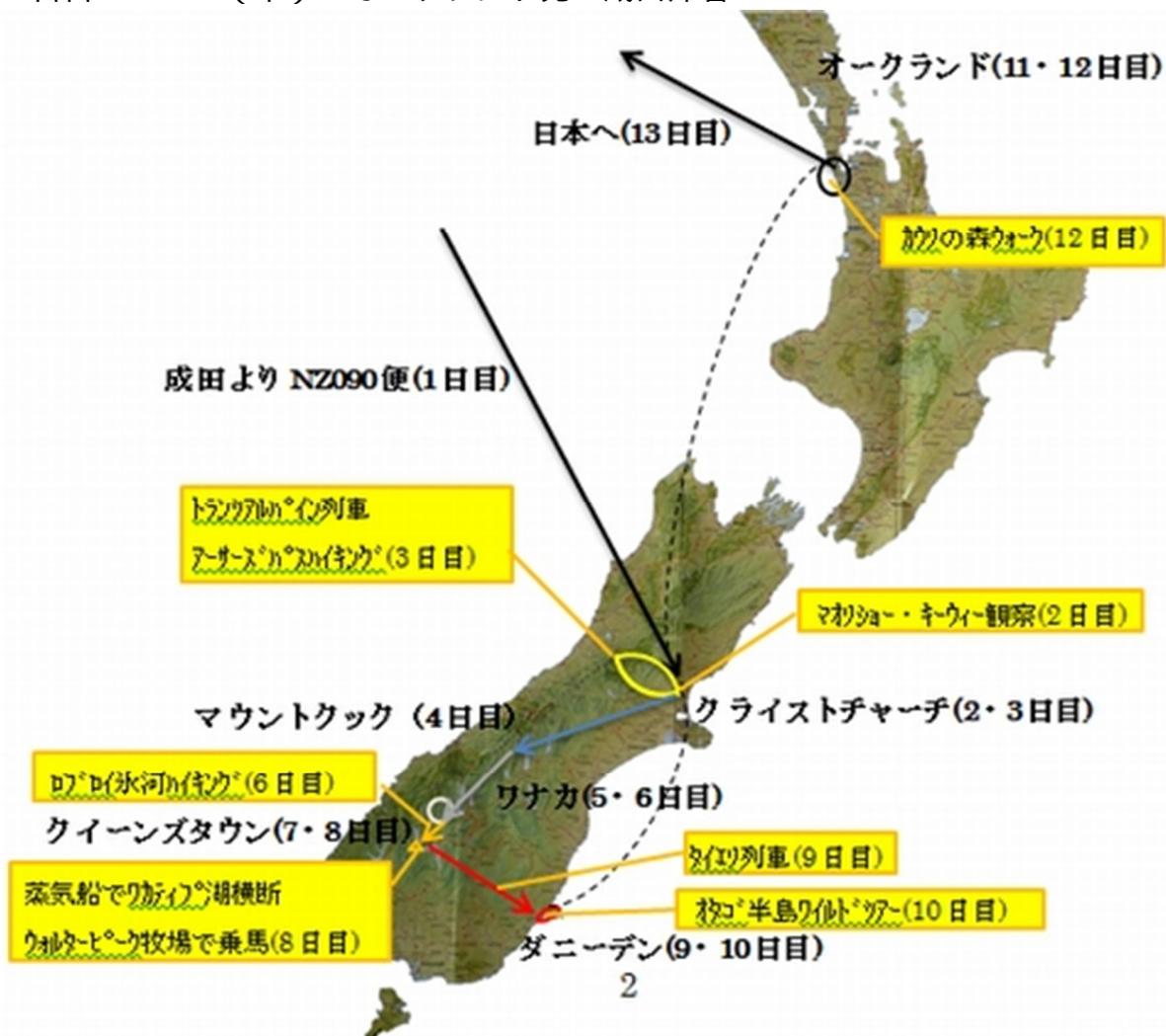
うわがまま一杯の希望条件で始まった、3回目のニュージーランド。

ツアースケジュール作り

前回大変満足できたので、またグローバルネットにお願いしようと、わがまま一杯の希望事項を書いたメールで問い合わせし、推薦プランの提案をしてもらった。希望事項全部をこの日数で周るのは無理ですというコメントでコース、ホテル、各滞在地でのツアーなど提案頂いた。さらにインターネットで調べて予定に組み込んでもらったりして、最終プランが決まった。

12/4(土)出発と決定。帰りも予定より1日延ばした方がお得と、もう一泊することにした。結局今回の旅は、前代未聞(我々にとって)の13日間の大旅行となった。

1日目	12/4(土)	成田発	
2日目	12/5(日)	クライチャーチ着 夕食:マオリョーとディナー、キウィ見学	クライチャーチ泊
3日目	12/6(月)	トランツアルパイン列車で行くアースバンプスハイキング	クライチャーチ泊
4日目	12/7(火)	定期乗合観光バス移動でマウントクックへ 午後自由散策	マウントクック泊
5日目	12/8(水)	出発まで自由散策 14:30 定期乗合バスでワカ、タシでワカ	ワカ泊
6日目	12/9(木)	ワカ氷河見学ハイキング	ワカ泊
7日目	12/10(金)	ワカから路線バスでクイーンズタウン 着後QT散策	クイーンズタウン泊
8日目	12/11(土)	蒸気船で対岸の牧場へ、乗馬ツアー。午後QT散策	クイーンズタウン泊
9日目	12/12(日)	12:30 路線バスでプランギ駅・タレイ渓谷鉄道でダニードン	ダニードン泊
10日目	12/13(月)	タコ半島、レーナック城、アルパトロス、ペンギンプレイス・エコツアー	ダニードン泊
11日目	12/14(火)	15:30 ダニードン発クライチャーチ経由オークランド	オークランド泊
12日目	12/15(水)	カリの森ウォーク半日ツアー 午後オークランド散策	オークランド泊
13日目	12/16(木)	オークランド発 成田帰着	



(1日目)

さあ出発 12/4(土) 晴れ

成田空港では、セキュリティーチェックでなぜか手荷物が引っ掛かり 3 回 X 線を通した後、結局中身を全部出して見たが何もなく、何だったのだろうか？

無事搭乗し最後部の二人席に収まる。窓際にも少しスペースがあるうえ、後ろに気兼ねなく座席を倒せるので夜間飛行には良かった。

(2日目)

夏のニュージーランドへ 12/5(日)

曇りのち晴れ

10:00 クライストチャーチに予定通り到着。

通関では何故かハイキング用品のチェックもされずにそのまま通過。

出口で出迎えの日本人ガイドさんと合流 (NZ 在住 8 年)。NOVOTEL HOTEL まで送って



大聖堂スクエアと NOVOTEL HOTEL



大聖堂 天井に天使が 3 人飛んでいる。
顔は結構怖い



クリスマスツリーの下にはプレゼントが一杯

もらう。本日は 2 時～ 4 時まで、クライストチャーチのクリスマスパレードがメインの通りであり、1 年に 1 度の大会イベントだそうで、お昼頃から通りの両側に場所取りが始まるようだ。

旅行日程とバウチャー、チケットの確認をしてから、お勧めのレストランの話と市内の地図をもらって、本日夕方からの「マオリショーおよびディナー、キーウィー見学」の集合場所を案内してもらった。何かあったら遠慮なく電話してくださいと、携帯の電話番号も教えてくれて、ほんとに短時間だったが親切

にして頂いた。

大聖堂もクリスマスに向けて、天使とクリスマスツリーやキリスト誕生の馬小屋のミニチュアと人形が飾られ、クリスマスツリーの下には、市民からの善意のプレゼントが山になっていた。パレードの始まる前にサウスシティーモ

ールのスーパーに明朝以降の朝食と果物を調達しに歩く。日差しはきついがあまり暑いという気温ではなく、長袖をめくるだけで十分しのげる。もうすでにパレード見学の場所取りで、道路の両側は人がびっしり。





クリスマスパレードの開始を待つ市民

日本に比べて子供が多く家族に子供 2~3 人が多くみられる。大聖堂までずーとその調子。両側の商店もパレード終了まで半分は開店休業の様な状態。

いよいよパレード開始。パトカーに先導されて大きな楽隊人形が先頭で楽隊に続き大きなトラクターに引かれた山車、さらに大型トラクターに引かれた台車、デコレーションされた乗用車などなど・・・パレードが始まったらほとんど途切れがない、いっ

たいどこにこれだけの出場者が控えていたのか、トラクターやらトレーラーやら大がかりな物が多いのに、サウスシティーの先のほうにも見えていなかった。もちろん左右の通りを含めてこの通りの歩行者横断もできなくなった。

いつまで見ていても切がない、いったんホテルに戻り、今夜のマリオショーディナーキーウィー見学のツアー集合場所に向かう。この頃になってやっとパレードも終わり、通りも車が通れるようになっていた。



パレードの先頭は楽隊



最初の山車はなんとトラクターが引いている さすがNZ



送迎バスの運転手が、「ここに 7:20 に集合、別の場所を案内する。」と言い残した。受付するとシールを胸に貼り、5:30 にここから 1 回目の見学始まるというのでその辺で待つ。

動物見学では、キーウィ以外の飛べない鳥が林の中をごそごと歩き、ケージの外には野生のニュージーランドの鳩なども見られる。と、突然前方にマオリ族の青年が飛び出し槍を構えて立ちふさがる。あらかじめ最初の説明の時に決めていた見学ツアーのリーダー（ツアー最初にガイドさんがインド人の男性を指名した。）がその青年と対峙する。マオリの青年が木の小枝をリーダーの足元に投げ出した、見学リーダーがその小枝を拾うと、マオリの族長が進み出

て、部族としての受け入れと歓迎のあいさつをし、マオリの女性が歌を歌って歓迎の儀式となり、ステージの方に誘う形でマオリショウが始まった。



マオリ族の青年がオリ族の青年が槍を構えて立ふさがる



マオリ族の娘が歓迎の歌後ろの小屋がマオリ族の家



ステージで歓迎の踊り

マオリの女性による歌と踊り、男性がギターと太鼓でリズムを取る。次に男性が大きな身振りと表情による踊り。また女性の踊りで、今度はポイという 20cm 程の紐に 5 cm 程のお手玉の様なものの付いた道具を両手に持ち、これを回しながらの踊りが始まった。これは女性だけが踊るものだと説明があり、ひとしきり踊った後、ステージの後ろの方からたくさんのポイを取り出し、見学していた女性全員に手渡し、ステージに引っ張り出す。今回の見学者は女性の方が多いのでステージは一杯になった。マオリの女性が簡単な説明をして、手本を見せて踊りが始まった。両端と真ん中のマオリの女性が手本を見せながら全員楽しそうに踊りを披露する。

次にマオリの男性が、ラグビーでも有名なハカを披露、こちらは男性の儀式と、見学者の男性をステージ上に。手本のマオリの男性の真似をして、膝を叩いたり踏ん張ったり、最後に舌を思いっきり出し目を見開いて「アカンベー」で終了。

動物園入り口にあったレストランに戻りディナーの後キーウィ観察ツアーに。

最初はこれも絶滅危惧種として保護されているケアが出迎え。山岳地帯にいるオオムで 30～40cm 位の大きな鳥だが、NZ の他の鳥と同様に人への警戒心がなくしかも好奇心が大変強い鳥で、人間の持ち物など興味を持つとちょっとした隙に、啜えて持って行ってしまうという



ツアー参加の女性全員によるポイを使った踊り



マオリ族男性による力強い「ハカ」



飼育保護されている Kea



これは野生の鳩（冠がある）



飼育保護されている Kiwi



飼育されている Morepork

イタズラで有名な様だ。ここではガイドさんが餌を持ってケアを近くに呼び寄せる。
見学後、ホテルに戻ったのはもう9時を過ぎていた。

(3日目)

NZで列車の旅だ 12/6 晴れ 青空がまぶしい



トランツアルパイン列車とアーサーズパスハイキング。朝は空気が冷たい。
ガイドさんは NZ 在住6年目だそうで、NZ と夏の日本（北海道）でガイドをしているそうだ。
英語が話せて、しかも好きな自然の中をガイドできるなんて、うらやましい限り。
車でクライストチャーチ駅へ。チケットをもらって列車へ。特に改札も柵もなく道路わきから芝生を超えて列車に。



クライストチャーチ駅 左端に駅舎が見える。左側芝生にはなんと野生のウサギがいた



進行方向に青空が広がっている



駅にいた野生のウサギ



牧草地の散水機

ガイドさんは一緒に乗車せず車でアーサーズパスに先回り。そこで再度合流予定。車両はビューへのある車両だったので座席数は比較的少なく、テーブルのある四人席を1グループごとに割り当てられているらしく、横は老夫婦、左後ろとその後ろも2、3人の家族グループだった。



カンタベリー平野に広がる牧場 はるか彼方に残雪のある山が見える。この列車はあの山を越えて行く

最初の停車駅まではカンタベリー平野の牧場の中をひた走りに走る。両側に見えるのは防風林で仕切られた見渡す限りの牧草地。両側の牧草地には、大型の散水機（横一列に散水口の付いたパイプが渡っており、所々に車がついていて、散水しながらゆっくりと進む）が見え。嘘か本当か、羊が昼寝をしながらその散水機に挽かれて死んだという事故があったらしい、それほどゆっくりと移動しているという事だ。



スプリングフィールド駅から見るアーサーズパス方面 みんな列車の乗客

最初の停車駅では5分停車、みな車外に出てこれから向かうアーサーズパスの山並みを記念撮影、青空をバックに乗客がほとんど降りている。ここから先両側の景色がよくなるようで、連結されている展望車（窓のない列車）からの写真撮影に良いそうだ。しばらくすると、右手に渓谷が見え始め、青空と渓谷の緑そしてきれいな流れが素晴らしい。さすがに観光列車と言うだけあり、いつまでも見飽きない。流れの緩やかな広い河原には、ルピナスの群落がきれいだ。



ワイマカリリ川が渓谷を作っている

ワイマカリリ川に架かる鉄橋

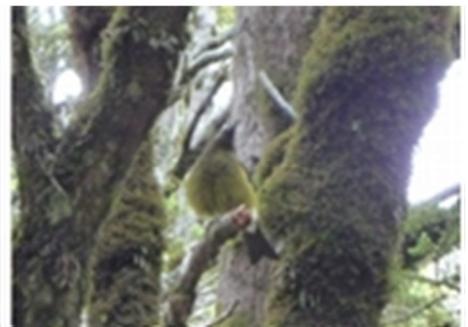
アーサーズパス駅でガイドさんと合流。記念撮影してまずビューポイントへ。ただし小雨がぱらつき出して、景観は期待できない。20分ほどでビューポイント、残念ながら雲が降りてガスの中に高架のハイウェイが少し見えただけで雨もそれなり。



アーサーズパス駅 標高 737m



オティラ陸橋 オティラ・ハイウェイ



Bellbird

トレッキング出発点はそこから5分ほど戻ったところ。トラック入り口では、雨は降っていなかったが念のため上下雨具で出発。入り口の森は南極ブナで小さな葉っぱだ。もちろんシダはそこらじゅうにあり、いろいろな葉っぱの形をしている。しばらく進むと沢があり、珍しく吊り橋ではなくきちんとした橋だ。沢の岸には中型のデージーが群生しており、沢水に濡れ揺れている。周囲のブナの枝には小鳥の姿が見え隠れし、小さな鳥の Bellbirdらしいが、すばしっこく枝から枝に飛び回り、なかなかカメラで捉えることが難しい。程なく森が切れ少し開けた広場に出た。

ここでは、草地にタソックがあり、道端には Rock Cushion の中にモウセンゴケが点在。日本にもモウセンゴケはあるが、私自身間近に見たことは無かった。このモウセンゴケは葉の幅は細いが、食虫植物特有の葉に粘液の玉の付いた細かい毛がいっぱい生えており、指で触れると指に着き糸を引く。再び森に入り、少し登り坂になる。空も次第に明るくなったが、雲はなかなか切れない。登りもきつい部分や河原の石の上を歩いたり変化に富んできた。

妻の短い足に合わせて、ガイドさんが登りのステップもできるだけ段差の少ない所、手を貸してくれたりかなり気を使ってくれている。こんどは河原に出た。12:30 を回っていたが昼食（ここまでは雨もなく明るくなっていた）河原も乾いており対岸には待望のマウントクッククリリーが咲いている、初めて見る花だ。このあともっと間近に見られるようになるとの事。そう言われて対岸を探すと、結構あちらこちらに白く咲いているのが見える。昼食の大きな

サンドイッチにかみつきながら、ガイドさんが入れてくれた温かいコーヒーを頂く。

周りには小さな花があちらこちらに咲いており、ニュージーランドスミレや開花直後は淡い水色ですぐに白くなってしまうブルーベルなど岩陰や少しの土のところにたくましく咲いている。昼食後しばらく写真を撮りながら休息した後、展望台方面に出発。



Snow tussock



Alpine cushion (白い花)



Alpine sundew (茶色の葉; 食虫植物)



New Zealand violet



Everlasting daisy



New Zealand bluebell



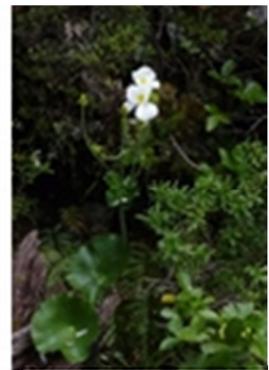
Lyall's orchid



New Zealand bluebell



Musk tree daisy



Giant buttercup

河原を進むと、岩の上を覆ったコケの様な植物があり、ガイドさんはその上を平気で歩いて超えていく。このコケはツタフナと言って、岩の上についているが大変丈夫でこうして上を歩いてもほとんどダメージを受けないという。実際手で触ってみると、結構固く上を歩いた後でも全く変化が見られなかった。

しばらく進むと河原の脇を登るようになり、また雨が降り出す。雨具のズボンをはいて進みマウントクックリリーの群生地に到着。

この先ちょっと急な道のりを過ぎて 10 分程で目的地の展望台との事だったが、マウントクックリリーの群落も見られたし、この先登っても今日は雲で何も見えないだろうという事で、今回はここまでとしマウントクックリリーの写真を撮りながら小休止して、帰路に就く。他のハイカーには全く合わなかった。



帰路も途中からは雨も上がり明るくなってきた。コースの上部は雲の中とTutahunaの様だ。